

きれいなまちで、おもてなし

白石川河川清掃
大河原ライオンズクラブ植樹

3月17日、多くの見物客が訪れる花見シーズンを前に、白石川河川敷や大河原駅前広場などで一斉清掃が行われました。当日集まった町民ボランティアや町内事業所の皆さんは、ゴミ袋を片手に空き缶やペットボトルなどのゴミを拾い歩き、左岸堤防では白石川が増水した際に漂着するゴミや落ち葉などをほうきで集めていました。

早朝からの作業にもかかわらず大勢の皆さんに参加いただき、河川敷周辺は見違えるようにきれいになりました。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。

また、この日は清掃終了後、大河原ライオンズクラブの皆さんにより、桜の木が枯れてしまった末広橋のたもとと、桜保育所付近の2か所へ「ソメイヨシノ」の植樹が行われました。



▲小さなゴミも丁寧に拾い集めました。



▲左岸堤防には、大量の枯葉が吹き溜まり、除去作業はとても大変でした。



◀毎年植樹を続けている大河原ライオンズクラブの皆さん。

地域活性化に向けた連携

大河原町と仙南信用金庫の
包括連携に関する協定締結式



▲仙南信用金庫渡邊理事長（右）と齋町長（左）

3月15日、大河原町と仙南信用金庫は、地域活性化と住民生活の向上に向けて、幅広い分野で協力するための包括連携協定を締結しました。協定内容は「企業・創業支援及び人材育成」「人口減少対策・地域経済活性化」「地域特産品の販売及び観光振興」「中小企業及び市街地商店街の支援」「地域及び暮らしの安全・安心」「その他地域社会の活性化及び住民サービスの向上」の6項目としています。

今後は、大河原町と仙南信用金庫の双方が持つ知識や資源を有効活用し、地域経済の発展につなげていきます。



子どもたちの未来のために

おおば よしき
大場吉樹氏から、3000万円の寄附

このたび、元教員で町議会議員を4期務められた大場吉樹氏から、「大河原の子どもたちに明るい未来を」という思いにより、慈愛事業及び教育振興並びにスポーツ振興を図ることを目的として、3000万円のご寄附をいただきました。大場氏は、教員という職業を通して、多くの子どもたちと接し、その成長を見守ってこられました。そして、かつて、町の保健福祉に大きく貢献された松山京子氏の慈愛の心に賛同し、松山氏が亡くなられた後、その思いを継承すべく発足された「慈愛表彰委員会」に参加し、子どもたちへ善行や努力に対する表彰を行ってきました。

寄附の贈呈にあたって大場氏からは、「他界した妻の強い願いもあり、地元大河原町の子どもたちに誰一人分け隔てなく学べる環境を与えられるよう、そして、大河原町の未来が大きく花開くように希望します。また、慈愛の心に賛同いただけるかたに、後に続いてほしい」と熱い思いを述べられました。寄附につきましては、今後大場氏のご意向に添った基金を設立し、大切に使用してまいります。

※「慈愛」とは、「親が子どもをいじめる、かわいがるような深い愛情」を言います。